

国語科教科書のリライト過程の分析 —「国語教育」の脱アイデンティティの契機—

佐々木奈月(東北大学大学院修了生)

1. 問題関心

■ 日本の学校／「国語教育」 日本語が必要とされる空間 「日本語指導が必要な児童生徒」という認識	教師 日本語で授業をする日常 指導が「困難」という現実	外国につながる子ども 日本語が(まだ)使えない状況 学習参加が「困難」という現実
--	-----------------------------------	--

■ 「国語教育」のアイデンティティ

- ・ 定義:「国語教育」=母語としての日本語の教育
- ・ 背景:1900年「小学校令」改正時に「国語科」成立
→国民に共通の正しい自国語の教育を意味してきた
田近(2014)
- ・ 歴史的文脈を踏まえた「国語教育」
「日本=日本人=日本語」という図式の形成

■ リライト教材の考案(光元・岡本、2006)

「表現はやさしく、内容は学年相当」

- ・ 目的: 早い段階から、年齢に応じた学習を可能に
- ・ 方法: 国語科教科書をリライト
- ・ なぜ: 日本語への依存度が高く、指導が困難
⇨様々な内容を含み、学年相当の思考〇

2. 研究の目的

外国につながる子ども向けに国語科教科書をリライトする際に、どのような葛藤や調整が生じるのか明らかにする。

3. 分析データと方法

- ・ データ: ボランティア団体Aによるリライト活動の議事録(2007年~2011年、全6単元、計48回分)
- ・ 団体Aの選択理由: ①リライト活動の蓄積(月1回、約2時間、元教員、日本語教師、学生等で実施)
②リライト活動以外の学習支援経験の蓄積
- ・ 分析軸: 「表現はやさしく」を方法・手段上、「内容は学年相当」を内容・目的上の課題として抽出

4.1 分析:「表現はやさしく」に関する葛藤・調整

<日本語を使わない・使えない>

子どもの日本語力と指導方法の関係性を軸に調整
主なリライト方法: 削除/視覚化/選択式/妥協

- ・ ロス博士の描写は省略する。…削除
(小4『ヤドカリとイソギンチャク』/説明文)
- ・ 「ゆめを見た」は、抽象的な表現だが、見ている夢を吹き出しの形で描いて、イラストで表せるのではないだろうか。
…視覚化(小1『ずっと、ずっと、大すきだよ』/物語文)
- ・ 併記するのはどうだろうか。「とれます」「もらえます」が分からない場合は、「とることができます」「もらうことができます」と並べて示す。…選択式
(小4『ヤドカリとイソギンチャク』/説明文)
- ・ 「ちいちゃんじゃないの。」の「じゃないの」は難しいので、国語では使わないが「？」マークを使ってみる。…妥協
(小3『ちいちゃんのかげおくり』/物語文)

4.2 分析:「内容は学年相当」に関する葛藤・調整

<学習目標は学年だけでは決まらない>

教材の学習目標(内容)について、
日本人の子どもとの対比や関係性を軸に検討・調整

- ・ 日本人の子ども学習目標と同じでよいのではないか。
- ・ 表現する力は日本人の子どもと違うが、1年生なので感じ方はあまり変わらないと思う。
- ・ 1年生といっても、耳にする話し言葉で、日本人の子どもにはわかって、外国人の子どもにはわからないことがあると思う。
- ・ そういうわからないことを意識して取り上げる必要があるのではないか。
(小1『ずっと、ずっと、大すきだよ』/物語文)
- ・ 「せっちゃん」ということばを、(自国に)帰国する子どもが知る必要があるか、あるいは、所属するクラスの子どものように知った方がいいか、迷った。
(小3『モチモチの木』/物語文)

5. 考察・結論 : 「国語教育」の脱アイデンティティの契機

【結論1】外国につながる子ども、教師の各々の状況・事情を踏まえた個別調整が必要になる。

=日本語が通じる日本人に一齐指導することを想定してきた「国語教育」の方法・手段が困難に。

【結論2】日本に関する知識や日本的感覚が相対化され、それらを習得することの正当性や妥当性が問われる。